

プログラミングの授業を初めて体験しての感想は、「難しい!」ということだった。先輩から、「プログラミングは難しいよ」と聞いていたので、心の準備はしていたつもりだったが、実際に授業を体験してみてとても大変だということがわかった。

初めの頃は先生が何を言っているのかさえわからず、授業のスピードについていくことができなかった。一年生の情報の授業とは違い、キーボードだけの操作が多く、覚えることがたくさんあった。

一番大変だったのがレポートだ。初めの頃は少し考えれば作れたが、だんだんとプログラムが複雑になり、作るのが大変になっていった。プログラムが一発で実行できないとイライラしてきて、投げ出したくなることが何度もあった。しかし、そんなときは諦めたりせず、何度も試行錯誤したり、友達と教え合いながらなんとかプログラムを完成させた。毎週火曜日から金曜日は、夕方から夜の 11 時くらいまでずっと 101 教室にこもってプログラムを作ることが当たり前になっていった。

今までレポートを作成してきて大事だと思ったことは、プログラムを自分の言葉で説明するということだ。プログラムの意味がわかっていなければ自分の言葉で説明できないし、自分の言葉で説明できなければ意味がわかっていないということになる。初めの頃はプログラムの意味をあまり理解していなかったが、だんだん意味がわかってきて自分の言葉でしっかり説明できるようになった。プログラムを一発で実行できたときはとても嬉しかった。そして、A 評価をもらえたときは「頑張って良かった」と感じた。

プログラミングは本当に大変だが、うまくできたときには達成感や満足感を味わうことができる。さらに、プログラミングを通じて新しい友達ができることが何より嬉しかった。一年生の頃は一度も話したことがなかった人と友達になることができたし、助け合いながらプログラムを作成することができてとても嬉しく思った。私一人だったら絶対にプログラムを完成させることが出来なかっただろう。友達がいてくれたからこそ、プログラムを完成させることができた。これからも友達と協力しながらプログラミングを頑張っていきたいと思う。

後期のプログラミングも大変だと思うが、前期で学んだことを生かして、最後まで諦めず自分なりに精一杯努力していきたい。